

■ 第 47 回 新潟市教育ビジョン推進委員会

日 時 令和 3 年 6 月 7 日（月）午後 1 時 30 分から

会 場 ふるまち庁舎 4 階 401 会議室

（司 会）

開会に先立ちまして、事前に配付をいたしました資料の確認をお願いいたします。

まず、はじめに本日の次第、会場図、資料 1 「教育ビジョン推進委員・本部委員名簿」、裏面には「新潟市教育ビジョン推進委員会開催要項」をお示ししております。資料 2 といたしまして「教育ビジョン令和 2 年度進捗状況最終評価」でございます。皆様、よろしいでしょうか。

ただいまから、第 47 回新潟市教育ビジョン推進委員会を開催いたします。

本委員会は、市の「附属機関等の会議の公開に関する指針」に基づき、原則として公開で行われ、議事録につきましては後日、市のホームページに掲載いたします。

また、会議録作成のため録音させていただくことをご了承ください。

それでは、井崎教育長が開会のごあいさつを申し上げます。

（井崎教育長）

皆様、こんにちは。この 4 月から新潟市教育委員会教育長を拝命しております井崎規之と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、第 47 回の教育ビジョン推進委員会ということで、皆様ご多用の中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、一言ご挨拶をさせていただければと思います。

皆様方につきましては、第 8 期の推進委員ということで、教育ビジョンの推進にお力添えをいただきまして本当にありがとうございます。改めまして、私からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

教育ビジョンにつきましては、ご案内のとおり、令和 2 年度から第 4 期の実施計画ということでございまして、これからの社会をたくましく生き抜く力を育成するということを基本的な考え方のテーマとして、各種施策を推進してきたところでございます。社会の変化を前向きにとらえて、大人も子どもも主体的に多様な人材と協働して、物事を成し遂げる力を育成する。そういった力をもった人材を育成するということに一生懸命取り組んでまいりたいと思っておりますし、昨年度以来、そういった実施計画の期間内に入ったということでございます。

しかしながら令和 2 年度は、ご案内のとおり新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて、子ども学校あるいは生涯教育を含めて、社会全体が大きな変革を強いられた年でもあった

と思います。教育ビジョンの施策についても、一部変更ですとか中止をせざるを得ない事業もございました。そういった中ではありましたけれども、各所属や学校の現場では、いろいろ創意工夫をしていただいて、可能な限り推進に努めてきたところでございます。

本日は、令和2年度の評価を皆さんからお聞きとりをいただいて、本当に忌憚のないところでご意見あるいはご助言をいただければと考えておりますけれども、これからも皆様のご尽力、お力添えを賜りながら、いい教育ビジョンの推進、ひいては子どもたちの能力の育成あるいは社会教育の励行ということで取り組んでまいりたいと思っております。

今日の会が教育ビジョンの推進の一助になるようお願いを申し上げ、私のあいさつとさせていただきます。本日はお忙しい中ありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(司 会)

ありがとうございました。井崎教育長は、他の用務のためここで退席いたします。

(井崎教育長)

皆様方、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(司 会)

改めてになりますが、今年度の推進委員及び本部員のメンバーにつきましては、資料1のとおりでございます。第8期の2年目となります。

確認となりますが、昨年度に引き続き、本推進委員会委員長は松井委員、副委員長は佐藤朗子委員をお願いいたします。

なお、お名前の隣に米印のついている方は、今年度より本部員になられた方々です。

また、本日は小川委員がご欠席されております。

引き続き、報告、協議に入ります。これ以降の進行は松井委員長をお願いいたします。

(松井委員長)

改めて、皆さんこんにちは。本日は、コロナ禍にあっても、こうして皆さんとの対面で会議ができますこと、またご準備くださった皆様にも感謝申し上げます。充実した会議にしたいと思いますので、どうぞご協力よろしくお願い申し上げます。

それでは、報告、協議に入らせていただきます。教育ビジョン令和2年度進捗状況最終評価についてでございます。最初に、教育総務課長からご説明をよろしくお願い申し上げます。

(渡辺教育総務課長)

教育総務課長の渡辺です。よろしくお願い申し上げます。

それでは令和2年度進捗状況最終評価について、ご説明をさせていただきます。

資料2をご覧ください。表紙をめくっていただきまして、見開きの施策一覧をご覧ください。

令和2年度の全体的な傾向についてですが、右側のページ中段以降に、進捗状況評価の分布としてパーセンテージを示しております。第4期実施計画の初年度となる令和2年度進捗状況最終評価でございますが、全34施策のうち、数値評価できるものが31施策あり、そのうち、新型コロナウイルス感染症の対応等によって評価できないものがございまして、今回は29施策が進捗評価の対象となります。その評価の分布を見ていきますと、指標評価を上回って達成した評価4が全体の44.8パーセント、指標目標を概ね達成した評価3は全体の37.9パーセント、両者を合わせますと全体の82.7パーセントとなっております。

また、重点施策であります視点1から視点5につきましては、16施策が対象となっておりますが、進捗評価分布を見ていきますと、指標目標を上回って達成した評価4が全体の31.3パーセント、指標目標を概ね達成した評価3が、全体の43.8パーセント。両者を合わせますと、全体の75.1パーセントとなっております。施策全体といたしましては、概ね指標を達成することができたと言えますが、重点施策である視点に位置付けた施策では、25パーセントが指標を下回っておりますので、指標達成に向けまして、改善案を検討していきたいと考えております。

次のページからは、各基本施策の取組みを記載しておりますが、私からは、視点1から5に該当する施策を中心に、ポイントとなる部分につきましてご説明をさせていただきます。

それでは、1ページをご覧ください。基本施策1、確かな学力の向上、施策1、資質・能力を育む授業づくりの推進です。事業の進捗平均では、3.2で目標を概ね達成しております。なお、2ページの事業3の指標1、こちらはすでに99パーセント達成となっておりますので、今後、指標のあり方につきまして検討してまいりたいと考えております。指標2の学習支援ボランティア派遣人数、こちらは残念ながら大幅に減少しております。こちらは、コロナ対応として、緊急的に学習指導員として対応したためと捉えております。

また、4ページをお開きください。こちらの事業6でございますが、令和2年度は学力実態調査の実施はないということになりました。学校訪問も実施できませんでした。令和3年度は、事業改革マネジメント研修を通じまして、学校教育の重点を定着させ、各校の学力実態に反映させていきたいというふうに考えております。

5ページをご覧ください。施策2、学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進です。事業の進捗平均は3.5で、目標を概ね達成しております。キャリア教育推進事業におきましては、リーフレットの配布や関係者との交流などを推進するとともに、キャリア・パスポートの効果的な活用方法につきまして、研修を実施してまいります。

10ページをご覧ください。基本施策2、豊かな心と健やかな体の育成、施策1、いのちの教育・心の教育の推進です。事業の進捗平均は3.8で、目標を概ね達成いたしました。自己肯定

感におきましては一部低かったところもございましたが、コロナ禍において体験的な活動等ができず、実感をもって、自分のよさに気付く活動を組めなかったことも要因であったと考えております。

11 ページをご覧ください。施策 2、自立を促す生徒指導の推進です。こちらも、事業の進捗平均は 3.8 で目標を概ね達成いたしました。事業 1 におきましては、生徒指導研修会の実施や、本市の生徒指導リーフレットの活用も進めてまいりました。その結果、初任者から中堅職員までの各ステージにおける系統立てた研修の実施によって、自律性と社会性を育む生徒指導の理解を深めることができました。

一方、現状として、小学校において、学級が落ち着かない様子が見られたことから、今後リーフレットを改訂し、ルールとリレーションのバランスを重視した生徒指導の推進を図っていきたいと考えております。

また、事業 2 のうち、指標 2 と指標 3、こちらにつきましては、昨年度、指標を変更させていただいた項目でございます。今後は、いじめ初期対応ガイドブックに基づいた初期対応の一層の充実を図るほか、未然防止のための道徳・特別活動プロジェクトチームの立ち上げ、授業事例の作成と学校への提案を行っていきたいと考えております。

15 ページをご覧ください。施策 5、健康づくり、食育の推進です。事業の進捗平均は 2.7 で、目標を下回る結果となりました。事業 1 では、小学校 4 年生と、中学校 1 年生の希望者に生活習慣病健診を実施する予定でしたが、コロナのため中止といたしました。しかしながら、予防啓発リーフレットを配布し、肥満・瘦身の予防対策の事業を継続して実施しております。

また、事業 3 におきましては、食育研究推進校の取組事例についての研修や報告、フォーラムなどをオンラインで行い、市内全校で共有いたしました。指標 1 の食育指導者の派遣につきましては、コロナの影響も受けましたが、感染予防対策を講じた上で、後期から取組みを再開し、事業を推進しております。

事業 4 の学校給食の充実では、指標 1、地場産農林水産物の使用率についてですが、こちらが夏季の天候の影響を受けまして、安定して仕入れをすることができず、目標を達成することができなかったというところがございます。

21 ページ、22 ページをご覧ください。基本施策 3、創造性に富み、世界と共に生きる力の育成、施策 2、外国語教育・国際理解教育の充実です。事業の進捗平均は 4.0 で、目標を達成いたしました。事業 1 におきましては、イングリッシュセミナーの中止により、アンケートの実施ができなかったり、事業 2 では、ロシアへの派遣や中国ハルビン市の受け入れを予定していた交流事業が、残念ながらコロナのため中止となってしまいました。このように、推進でき

ない事業もございましたが、事業3におきましては研究授業の実施、外国語教育マネジメント通信を通じた情報発信、外国語教育マネジメント研修の実施によりまして、指標1、2、3、こちらいずれも目標値を上回ることができました。

昨年度の小学校の外国語の教科化に向けまして、指導と評価にかかる総括的評価の計画の新潟市教育委員会プランを発出し、大きな混乱なく初年度を迎えることができました。

また、今年度、中学校では新学習指導要領の全面实施を迎え、今後も市小研や中教研との連携を図り、実践の事例共有などを行っていきたいと思っております。

続きまして、23、24ページをご覧ください。施策3、情報教育の充実とICTを活用した教育の推進です。事業の進捗平均は4.0で目標を達成しております。事業1-②では、ICT活用にかかる教職員研修の成果として、目標を上回ることができました。今後は、ICT支援員の活用やポータルサイトの活用等により、実践例の情報共有を行う必要があると考えております。

また、事業1-④におきましては、学校及び児童、生徒からの回答で、いずれも目標値を上回りました。今後もICTを活用した実践ができるよう、ICT支援員を活用しながら、スキルを高めるための取組みを行ってまいりたいと考えております。

続きまして、27、28ページをご覧ください。基本施策4、共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進、施策1、子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進です。事業の進捗平均では3.7で、概ね目標を達成しました。

事業2では、合理的配慮セミナーの実施によって、参加者の理解度等で目標を上回ることができました。昨年度、オンライン開催による参加しやすさもあったことから、今年度もオンラインを活用した研修を実施してまいりたいと考えております。

33ページをご覧ください。基本施策7、家庭教育の充実と子育て支援、施策1、家庭教育・子育て支援の充実です。事業の進捗平均は4.0で目標を達成しております。事業1におきましては、子どもの成長期に合わせて、子育てに関する知識や親としてのかかわりなど、必要な情報を提供した結果、学校などと連携、協力しながら、家庭教育の啓発を図ることができました。引き続き、コロナウイルス感染防止対策を継続しながら、子育て中の保護者の不安、負担感の軽減を図る講座などを実施していきたいと考えております。

34ページでございます。施策2、乳幼児期からの読書活動推進です。事業の進捗平均は4.0で、目標を達成しております。事業1では、感染拡大防止による1歳誕生歯科健診の中止期間がございましたが、健診再開後は対策として、会場では読み聞かせを行わず、絵本を紹介し手渡す方法としたほか、会場でできなかった読み聞かせについては、図書館で行うことを案内したことによりまして、5,200人を超える親子に読み聞かせや親子のふれあいの大切さを伝える

ことができました。

また、事業2では、小さなお子さん連れの方でも、気兼ねなく図書館を利用できる赤ちゃんタイムについて、週2回の実施館を着実に拡大し、指標目標を達成するとともに、絵本何でも相談タイムの実施館も増やしてまいりました。これらの取組みにより、乳幼児期からの生涯学習の基礎づくり、読書に親しむ基盤づくりを進めることができました。

35 ページをご覧ください。基本施策8、人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進、施策1、学び育つ各世代への支援です。事業の進捗平均は2.6で目標を下回る結果となりました。事業1では、受講者の満足度を指標に挙げておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、前期講座を中止せざるを得なく、特別講座とプレ講座の合計7講座を実施しましたが、満足度は目標に達成しませんでした。今年度からは一部オンラインを導入し、効率的な運営を図っていきたいと考えております。

また、事業2では、少子化や超高齢化、市民生活の多様化などに起因する地域の課題学習を通じて、支え助けあう地域づくり、次世代の担い手が健全に育つ地域づくりにつながる内容を実施いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの方が集まるイベントなどは中止となりましたが、講座の実施マニュアルを作成し、募集定員や形式に制約はあったものの、市内各公民館で169講座を実施することができました。

こちらの事業も、メニューによってはオンライン形式を取り入れていく予定でございます。

事業3におきましては、生涯にわたる学びの基礎となる、読書週間の定着を子どものうちに習慣化させるということを目指し、子ども読書活動の推進をしております。児童書貸出冊数は、令和2年度は95万7,000冊余りとなっております。図書館全館で、うちどくブックリスト、読書ノートを配布し、いかに読書の習慣化につなげることができるかを考えて、事業を推進しております。

37 ページをご覧ください。施策2、学習成果を生かす活動への支援です。事業の進捗平均は3.7の目標を概ね達成しております。二つの事業は、いずれも自らの学習で培った知識や経験を地域活動や教育活動に生かすことを目的にしているものとなっております。事業1におきましては、ボランティアバンクの登録者数と活動件数を指標としており、コロナの影響を心配しておりましたが、前年度並みの結果となりました。

また、事業2におきましては、地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業で、目標を達成することができました。今後はいずれの事業もマニュアルを作成するなどして、ボランティアや地域の方々が安心して活動に参加できるように配慮してまいりたいと考えております。

39 ページをご覧ください。基本施策9、地域と学校・社会教育施策施設が協働する教育の推進、施策1、地域と共にある学校づくりの推進です。事業の進捗平均は4.0で、目標を達成

いたしました。事業1では、モデル校となる12校に学校運営協議会を設置し、保護者、地域の方々と学校が育てたい子どもの姿を共有し、学校教育ビジョンを練り上げることができました。

一方で、地域総がかりで子どもの豊かな成長を支えていく体制構築のためには、コミュニティ・スクールの概要や学校教育ビジョンの理解を広げていく必要があると感じております。令和4年度の全校設置に向けまして、モデル校の成果と課題を共有しながら、制度の周知を図ってまいります。

また、事業2におきましては、1校当たりの学習支援ボランティアの延べ人数や市立高校生のインターンシップ受け入れ企業数を指標といたしましたが、いずれも目標を上回ることができました。

45ページをご覧ください。基本施策10、学びのセーフティネットの構築に向けた取組みの推進、施策1、保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進です。事業の進捗平均は2.5で、目標を下回る結果となりました。事業1では、スクールガード・リーダーの各区配置と、市内すべての市立小学校に子ども見守り隊を組織し、見守り活動を進めました。しかしながら、指標2に示しました地域の連携の場の開催につきましては、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、無理のない範囲での実施とすることを各学校に通知したため、開催した学校が大きく減少しました。今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、積極的な開催を依頼してまいりたいと考えております。

46ページです。施策2、教育の機会均等を図るための取組みの推進です。事業1では、保護者や市民団体からの意見を踏まえ、制度内容を分かりやすくするためにチラシの見直しを行いました。また、申請書についても、市のホームページから印刷できるようにすることで申請のハードルを下げております。また、コロナ対策として新たな生活様式に対応すべく、就学援助を上乗せし、衛生用品購入経費として1人5,000円の支給を行いました。今後は、機会を捉えた制度周知と、全ての児童、生徒の保護者からの申請の意志確認ができるよう、学校現場と協議を行う予定でございます。

続いて、事業2におきましては、コロナ対策として、通常9月の公費支給を7月に前倒しし、支援を行いました。今後は、アンケート結果などを踏まえ、制度の周知方法や地元定着、定住人口を確保としての返還特別免除制度の拡充などの検討を進めてまいります。

続きまして、48ページをご覧ください。基本施策11、学校教育・生涯学習環境の基盤づくり、施策2、市民の多様な学習に応じた学習環境の整備です。事業の進捗平均は2.0で、目標を下回る結果となりました。事業1におきましては、市のホームページ、生涯学習、社会教育のトップページをさらに検索しやすいページとし、教育委員会主催の講座のみならず、市内の

ボランティア活動の機会や大学の公開講座などの学習状況を発信しました。

生涯学習相談ボランティアは、新型コロナウイルス感染拡大防止により活動できませんでしたが、今後は対策を講じながら活動を再開してまいります。

事業2におきましては、緊急事態宣言を受け、休館など貸し出しができない期間があり、指標は目標を下回っておりましたが、ホームページ上での児童、生徒向けサイト紹介など、読書活動や学習を支援したほか、開館後は貸出冊数や期間を拡大し、感染機会の低減、在宅時間の充実に配慮した対応策を講じております。

51 ページをご覧ください。基本施策 12、市民に信頼される教育関係職員の育成、施策 1、教育関係職員の研修プログラムの充実です。事業の進捗平均は 3.5 で、目標を概ね達成いたしました。事業1におきましては、研修後に、研修に満足したか、研修内容を今後生かしていくかの2点について、参加者のアンケートから評価をいたしました。満足度については、目標を下回る結果となり、要因としては、コロナ禍において急遽導入したオンラインによる研修における研修満足度の低さが挙げられます。

これらを受け、今後、オンラインによる研修を実施する際には、従来型の研修をそのままオンライン研修に委嘱して実施するのではなく、オンライン研修の特性に合致した研修内容と伝達方法を新たに開発し、実施していくようにいたします。

事業2におきましては、学・社・民の融合に関する研修の推進を進め、2種類の研修における参加者の理解度を指標といたしましたが、いずれも目標を達成することができました。

以上で、令和2年度、施策の進捗状況につきまして、重点施策である視点1から5に該当する施策を取り上げて報告いたしました。推進委員の皆様からご意見やご助言をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(松井委員長)

ありがとうございました。それでは、報告・協議に入らせていただきます。資料2の新潟市教育ビジョン令和2年度進捗状況最終評価についてご説明をいただきましたので、確認させていただきますけれども、こちらの推進委員会は三つの役割がありまして、一つ目の役割は実施計画に対しての意見を述べさせていただくこと。二つ目は、進捗状況についての報告を今ほど受けましたけれども、それについての助言を行うこと。三つ目は、進行管理についての助言を行うことという三つが目的となっておりますので、これらの目的を踏まえたご意見等をこれからいただければありがたいと思っています。

また、今日は時間が短いということもございますので、発言できなかった場合は、その詳細について、また質問を含めて、意見送付用紙を事務局から後日、メール等で送っていただきます。そちらにご記入いただき、またご提出いただければと思います。今日は時間が許す限りと



いうことをお願いします。

最初に、すべての施策および視点1から5の評価部分について、並びに重点施策であるところの視点1から5のうちの、視点1と4が位置付いている基本施策1から4について、まずご意見を伺いたいと思います。そのあとに、基本施策5から9の視点2と3、最後に基本施策の10から12の視点4と5について、ご意見をいただきます。つまり、大きく三つのパートに分けて、20分程度ずつご意見をいただければということで、遅くても午後3時5分くらい前には終了したいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

最初に、すべての施策および視点1から5の評価分布、並びに基本施策1から4の視点1と4についてということで、まずお願いしたいと思います。全体の1から5の評価分布、基本施策の1から4の中の視点1と4、そちらについてはご意見等を、またご質問も含めていただければありがたいと思います。基本施策1から4になります。どちらからでも結構です。まずは、28ページまでについてご意見をいただければありがたいと思います。ご意見のある方、挙手をお願いします。

(鏡委員)

鏡です。教えていただきたい。3ページのところの家庭学習習慣の定着があると思うのですが、それを見ると、小4と小6については、いわゆるここに書いてる時間の割合が下がっているのですけれども、中学生については上がっています。特に、その辺について何か、教育委員会の視点、お考えがあれば教えていただきたいです。

(松井委員長)

学校支援課、お願いいたします。

(山田学校支援課長)

成果と課題の途中にも書いてありまして、小学生につきましては、休校中あるいはコロナ禍の影響などで、ゲームなどをやる時間が増えてしまって、その分家庭学習の習慣、定着が遅れてしまったのかと推測しています。一方、同じようにコロナ禍の中にある中学生ですけれども、中学生については、逆に勉強にそれが向いたのかと思っております。推測の域は出ませんが、数値から考えたのはその点でございます。

(鏡委員)

追加でよろしいでしょうか。前からそう思っていたのですけれども、やはり中学生は、部活動の時間とか非常に多忙ですよね。今回コロナのことがあって、部活動の時間も制限されている。それから、下校時間についてもおそらく早まっていると推測されます。それによって、家庭学習時間が増えたということになると、それがすべてだとは言いませんけれども、やはり部活動の、いわゆる曜日の回数というのでしょうか。何回やるのか。どのくらいに休みを組んで

入れるのか。

それから、各学校で決めている下校時間についても、ある程度、下校時間を少し早めに設定することによって、子どもたちの時間が十分取れることが推測できるのではないかと思うので、部活動や下校時間については今後、検討が必要なのではないかと個人的には思うのです。

(山田学校支援課長)

ありがとうございます。部活動につきましては、今年で4年目になりますが、部活動のガイドラインを設定しています。各学校では週当たりの練習時間であるとか休日、土日のうち1日は休むなど、決め方は学校に一任していますが、以前に比べてある程度セーブした形で部活動をやっという取り組みでおります。

ただ、まだまだそれでも部活動に割く時間は多いという状況にあると思いますので、いただいたご意見を参考にしながら、また家庭の学習とのバランスを取ることができるように検討してまいりたいと思います。

(松井委員長)

ありがとうございます。非常に大事な点だと思いますので、引き続きご検討をお願いします。他にいかがでしょうか。

(熊谷委員)

2ページ目、すごく些末な質問で申し訳ないのですが、学習指導員と学習支援員。この違いは、どういうことでしょうか。1ページ目、2ページにまたがっていますが、アフタースクールの中に学習支援員というものがあって、事業3の学習指導員というものがあって、これの違いはどういうふうなことでしょうか。

(松井委員長)

学習支援員と学習指導員の違いについて、教えてください。

(山田学校支援課長)

学校支援課から説明いたします。まず、1ページ下にございますアフタースクールですが、これは全中学校対象に、英語と数学を放課後の時間帯に、希望する子どもたちに年間10回程度ずつ教えようというものです。ここでいう学習指導員というのは、教員のOBであったり、塾を経営した経験がある方だったりということで、地域の方から入っていただいています。アフタースクールにおける学習支援員です。

2ページの学習支援ボランティア派遣事業というところですが、まず学習支援ボランティアというのは、教員を目指している、市内である五つの大学の学生からご協力をいただきまして、授業の空いている時間に、学校にボランティアに入ってもらおうという事業なのです。それが、学習支援ボランティアです。

ただ、昨年は新型コロナウイルス感染症の関係で、国から補助金がつきまして、学習指導員を派遣する事業を、昨年度1年間限定で立ち上げたのです。これは、メンバーとしては重なる場合もありますが、学生であったり、学校が元々いろいろボランティアとしてお世話になっていた地域の人材であったりします。授業の補助に入ってもらおうということで、学習指導員派遣事業というものを昨年1年間やったものです。

もう一度整理しますと、アフタースクールにおける学習指導員というものは、中学校の放課後の指導を行う教員OBなどの皆さん。学習支援ボランティアというのは、教員を目指す学生から、ボランティアとして授業の補助などに入らせていただくもの。学習指導員というのは、昨年1年間限定で、新型コロナウイルス感染症対応のために、いろいろな授業の補助などに入ってもらったものということで、学生が入ったり、地域の人が入ったり、メンバーとしては重なる場合もありますが、事業としては別々のものであるということです。

(松井委員長)

少しややこしいですけども。よろしいですか。

(熊谷委員)

はい。

(松井委員長)

ご説明ありがとうございました。

(佐藤(朗)委員)

佐藤朗子です。5ページのキャリア教育推進事業ですが、子どもたちに将来の夢や目標を持っていますかって、なかなか肯定的な回答者が少ないということですが、しかしこれを考えると当たり前というか、今はもうコロナで世の中が大きく変わってきていて、職業ももう既存の職業がどんどんなくなっていくみたいなことを言われていますので、特に中学生などは十分にそれを理解して、希望を失っているだけではなくて、ひょっとするとどんなふうにも探索していったらいいのだろうかという思いも含まれているような気がします。

ですので、意見ですけども、職場体験など、分かりやすい既存の職業の方々、もうすでにやってらっしゃるかもしれませんが、そういうわりと分かりやすい、だれもが知っている古くからの職業のようなことだけでなく、もう少し若い人が新しいことを始めている、自分で事業を始めてどこかのヨーロッパの品物を売ったら売れてしまったみたいな。例えばですけども。新潟にもそんな人が結構、たくさんいらっしゃるというふうに聞いていますので、何か自由な探索をしつつ、将来を歩んでいくようなそんなスタイルについても、別にそれは怖くないのだというようなことを伝えられたらよいのではないかと思います。

(松井委員長)

ありがとうございます。ご意見ですか。

(佐藤(朗)委員)

意見でした。

(松井委員長)

支援課から何かありますか。

(山田学校支援課長)

ありがとうございます。職場体験にしろ、インターンシップにしろ、これまでご協力いただいていた市内あるいは地域の会社などにこれまで同様お願いしているところだと思います。ご指摘いただいたように職業もだいぶ多様化しておりますし、ベンチャー企業であったり、あるいは若者が起業したりという形で、それこそ学生が起業してお店を持っているなんていうことが報道されているくらいですので、多様なキャリア、多様な職業等について、今後体験できるように、私どもから学校にいろいろと情報を提供できるといいのだらうと思いました。ありがとうございます。

(佐藤(朗)委員)

ありがとうございます。

(松井委員長)

ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。

続いて、どうでしょう。この部分について。

(小見委員)

小見でございます。23、24 ページ、施策3、情報教育の充実とICTを活用した教育の推進ということで、今、新潟市ではGIGAスクール構想ということで、非常に積極的に日々取り組まれているということで、保護者の立場としてもよく知っております。

そんな中で、子どもたちは比較的非常に早く、そういった機械の操作であるとか、前向きに使うような動作というものは慣れやすいのでしょうかけれども、やはり教員の皆様がしっかりそれを有効に活用していくための教育、研修等と、この実施計画の評価の中から読み取ると、しっかりとやっけていただいているというふうには受け止めております。そんな中で、1年間くらい相当頑張ってきた中で、多分いろいろな課題というものが改めて見え始めてきているのではないかと感じてまして、その辺のもしポイントがあれば、場合によっては中身の実施計画の評価に対しても、反映していくような部分があるのか。そこがもしあれば、聞かせていただけますでしょうか。

(松井委員長)

ありがとうございます。新たに見えてきた課題というものも含めて、お願いいたします。

(山田学校支援課長)

ありがとうございます。今、まさに始まったばかりでございまして、なかなか課題がまだ見えてきづらい面もあるのですが、現段階での課題といえば、先生方あるいは学校による温度差といたしますか、技術差でしょうか。そこが、まさに課題になっていると思います。それを埋めるべく、子どもたちに追いつけ追い越せではないですが、先生方も当初は無理せず少しずつではありますが、授業の中で当たり前のようにタブレットを用いた授業を展開できるようにしていかなければなりません。そういう意味では、スタートラインがそもそも違っている段階であること、そこが課題かと認識しています。

(小見委員)

格差があるのでしょうか。学校間格差、教職員格差。

(松井委員長)

中学校の佐藤委員、いかがですか。

(佐藤(靖)委員)

まさしく。これは年齢に限らないと思いました。チャレンジ精神があるかないかで。あと、情報教育担当で、中学校の教員同士の中教研というものがあるのですが、これは生徒指導が困難になるからと、あまり持たせていないという学校もあるとか。やはり、学校の管理職の考えもかなり影響するのか、困難なことは、やはりうちもありました。

この間、グーグルフォームでもう即、子どもたちに「自分は使い方のルールを破りましたか。」ということを知ったら、思い切り 90 パーセントが「はい」と。でも、修学旅行に持たせて非常によかったと思いますし、積極的にやることで、子どもたちもやってはいけない、やってしまうというよりは今、真っ盛りなのですけれども、子どもたちなりに考えて、自分たちで考えさせるようなそんなところを今、推進しているところです。チャレンジだと思います。

(松井委員長)

ありがとうございます。

(山田学校支援課長)

23 ページの下の段のところに、教職員研修等について、事業の指標を設けてあります。今後の方向性のところにポータルサイトの活用、有効な実践例についての適宜情報共有ということが書いてございます。今、ICT支援員を委託している会社などからもご協力いただきまして、e-supportというホームページを立ち上げております。そこには、GIGAスクールに関するいろいろな機器の使い方、授業における活用の仕方など様々な情報のリンクを貼って、どなたでも見ていただけるようになっています。先生方もそこにアクセスをして、どんどんいろいろな情報を得ていただきたいと思います。

それから、各校に1人ずつGIGAスクール推進リーダーという方をお願いしています。その方同士でチャット形式のように、うちのGIGAスクール担当者と一緒に、パソコン上でいろいろな情報をやり取りしながら、こういう点で困っている、それについてはこういうふうにするといいですというふうに、教育委員会と学校とのやり取りをしたり、学校同士での情報共有をしたりしています。少しずつ、少しずつ草の根ではないですけども、知識と技術が広がっていきけるように今、方策を立てています。

(松井委員長)

ありがとうございます。非常に大事な点だと思います。小見委員、ありがとうございました。これがまた、コロナ禍によって浮き彫りにされた課題だと思います。

それでは、よろしいでしょうか。また、あとで戻ることはできますので、とりあえず次に進ませていただきたいと思います。

基本施策5から9の視点2、3につきまして、44ページまでになります。どちらからでもご質問等々、どうぞ。挙手のうえ、お願いいたします。

(熊谷委員)

熊谷と申します。33ページの家庭教育の充実と子育て支援というところで、家庭教育振興事業の中で、友人から聞いた話ですが、ゆりかご学級というものがございます。産後すぐの子ども、親御さんを対象にした事業ですが、それに親から言われて、申し込んだけれども、そういう情報をもっていない人はどうやって入るのですか。非常に分かりにくい。募集に入っていくまで。そういうことが、やはり若い子育てを始めようという方を対象にしているわけですから、そこら辺の情報の取り方、それをどういうふうに考えているか。それをお聞きしたいと思います。

(松井委員長)

ありがとうございます。今の情報の取り方ということでございますが、こちらはいかがでしょうか。

(渡部中央公民館長)

ご意見ありがとうございます。基本的に、ホームページに出したり、各公民館でチラシを作ったりというところでご案内はしているのですが、やはりホームページですと見ない方もいらっしゃるし、公民館のチラシですと、結局それが行き渡らなくてというところも出てくるかと思えます。

それで、情報の取り方、ゆりかご学級については、子育て支援ということで、子育て不安を解消するためということでの事業ですので、情報の取り方をどういうふうにしたらいいのか。それは、私ども公民館でもう一度どういう出し方が良いか。市報にも入れているはずで

が、ただそれを出してはいても、やはり見ない方については情報としては取れなくなってしまうわけです。そこをどうしていったらいいのか、考えていきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

(熊谷委員)

追加です。市報も取っていない、新聞も持っていないという若い世代が非常に増えていると思うのです。その人たちが、スマホで子育てを始めたばかりの人が情報を取ろうとしたときに、公民館ではないところの情報がすごくたくさん取れるのだそうです。その中に、どうやって市の大事な重点となる事業を発信していけるかということです。そこが、すごく大事かと思いました。ぜひ、意見等聞かせてください。

(松井委員長)

若い人たちへの発信ということで、これに限らないと思いますけれども、非常に大事なご指摘だと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

(渡部中央公民館長)

ご意見ありがとうございました。

(松井委員長)

他にいかがでしょうか。

(鏡委員)

39 ページに、いわゆる学校運営協議会を設置しと書いてあるのですが、学校評議員会というものもある。私も、学校評議員会と学校運営協議会の違いみたいなものを調べてみたのですが、今後、いわゆるモデル校を 12 校にして各学校に設置していくとなると、学校評議員会を学校運営協議会に切り替えていくという形の理解でよろしいでしょうか。

それと、学校評議員会というのは、実際に新潟市の小中学校の中で、ほとんどが設置されていたものなのでしょうか。その辺を教えてください。

(渡辺教育総務課長)

はじめに、今回新たにコミュニティ・スクールを推進するにあたって、学校運営協議会を新たに設置することになっているのですが、学校の評議員会につきましては、学校運営に関する、いわゆる評価を、これまでもずっとしていたという組織になります。それが、新たに立ち上がる学校運営協議会は、評価もそうですし、学校も運営にかかる承認も含むということで、役割が増えるような形になります。ですので、今後は、評議員会は協議会のほうに吸収されると思いますか。一つの形になるというようなイメージを持っていただければと思っております。

あと、評議員会につきましては、これはどの学校であるとしても、これは基本的にはすべて

の学校にたしか設置されていたかというふうに考えております。

(松井委員長)

よろしいですか。

(鏡委員)

分かりました。ありがとうございました。

(松井委員長)

よろしいですか。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

(熊谷委員)

次の40ページの学校支援ボランティアについてですが、これは、一般の市民の方が、私これをやりたいといったときの研修の体制は、どういうふうにお持ちになっているのでしょうか。

(松井委員長)

学習支援ボランティアの研修の持ち方をどうされていますかということですが、いかがでしょうか。

(宇ノ井地域教育推進課長)

地域教育推進課です。学習支援ボランティアに、特に研修の機会はありません。学校に、こんな協力をしたいから入りたいという依頼を、地域教育コーディネーター経由で学校に伝えます。学校も逆に、学習支援ボランティアが必要な場合は、地域教育コーディネーター経由で、地域に広報します。このような形で、研修という場が必要になるようなボランティアとしての募集は特にしておりません。

(熊谷委員)

その事業、事業で募集するということですね。

(宇ノ井地域教育推進課長)

そうです。例えば、単純な引率ですとか、子どもの見守りですとか、そういった分かりやすい内容を伝えることで、それだったらやりますという方から応募していただく。そのようなシステムを取っております。よろしかったでしょうか。

(松井委員長)

よろしいですか。

(佐藤(朗)委員)

35ページの事業1、にいがた市民大学について伺いたいのですけれども、今回コロナ禍で頑張って開催をされていたのに、満足度が今一つであったということを書いておられるのですけれども、分析としては、どういうところで下がっているのか。一部オンラインで解決できる



というふうにお考えなのかと思ったのですけれども、何がなかったのかでオンラインだとこうなるだろうというようなところがあれば伺いたいのですけれども、いかがでしょうか。

(松井委員長)

ありがとうございます。こちらは、生涯学習センター所長、お願いします。

(枝並生涯学習センター所長)

市民大学7講座の平均の満足度が75パーセントでした。その理由としては、一つの講座は題名と講師のお話の内容が若干ずれていて、受けられた方の期待度と少し違った内容で、そこで満足度が下がったという、現状があります。なかなか難しいところではあるのですが、職員も講師と一緒に、こういう内容でということ、それをチラシに書いて募集はするのですが、皆さんの期待に沿わなかった講義の内容だったということで、そこが少し満足度が落ちてしまったというところでございます。

昨日、公開講座というものを一つやったのですけれども、先生がオンラインで、皆様は会場に集まっていたいて、というような形でやりました。そういうお話を聞くだけの講座にあつては、オンラインでも対面でもあまり差はないと感じています。やはり満足度は内容によるというところだと思っております。

(松井委員長)

平均だということなのですね。

(佐藤(朗)委員)

そうなのですね。理解いたしました。ありがとうございました。

(松井委員長)

よろしいですか。オンラインによる差というものは特に見られない。講義形式であれば、オンラインであろうと、対面だろうと同じような効果があるだろうということですね。

(枝並生涯学習センター所長)

そうですね。あまり差は見られないと思われま。

(松井委員長)

ありがとうございました。このことについて、他にいかがでしょうか。特にないのであれば、のちほどまたそこに戻ることができますので。

続いて、10から12の最後のところになります。45ページ以降、視点4、5を中心にご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

(齋藤委員)

45ページの地域見守り活動支援事業についてです。これは要望ということになると思うのですけれども、一昔前、ドカベンジャンパーがあつたり、帽子があつたり、子ども見守りを

全市でやっているということが非常に意識されていたと思うのです。ジャンパー類の提供がなくなって、地域見守り活動という全市的な取組みなのだという辺りが少し。学校もそうだし、やってくださる方も、少しそれがあまり周知されなくなってきているのではないかという気がするのです。

今回、コロナがあったせいで、各学校で見守りしてくださっている方、集まる会が減っていたと思うのですけれども、予算を使わなかったとしても、新潟市として地域見守りの方にすごく力を入れているのだと広報していただいたりだとか、学校も当然、地域見守りの方に毎年お礼を申し上げるのですけれども、市としてもご協力ありがとうございますというようなことをすることでも取組みが違おうし、新しい方が増えてくれるのではないかと思うので、そのあたりを考えていただけるとありがたいと、この指標を見て思いました。

(松井委員長)

関連は、学校支援課ですか。今の地域見守り活動支援事業、お願いします。

(山田学校支援課長)

たしかに、ご指摘のとおり、以前はセーフティスタッフという形で、ながらパトロールのような形で、ドカベンジャンパーをお配りしていた時期もございますが、そうではなく、地域の子どもは地域で守るという気風が高まってきたというところから、今の形に切り替えてきているところでございます。

お礼の形を市教委としてお伝えするという場面がなかなかなくて申し訳ないとは思っていますが、各学校を通してご協力いただいた方には、ぜひお礼の気持ちを伝えていただければと思っていますところでは。

登録していただいている人数は、西区の事件以降、年々増えてきてはいるのです。一方、高齢化が進んでいて、なかなか実際に立っていただく機会が少なくなったりという課題もまた見えてきてはいます。とても大事な活動であると思いますので、ご意見も参考にしながら、また今後の取組みを考えていきたいと思えます。

(松井委員長)

ということですが、よろしいですか。非常に大事な点だと思いますので、子どもたちを守るといううえで、引き続き、よろしく願いいたします。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(鏡委員)

鏡です。53 ページのところ、部活動指導員派遣事業とありますが、このところの、課題と成果の中に、部活動指導員の配置率が依然低く、配置を希望する学校にという文章があるのですが、この具体的な何か対策みたいなものは。実は、私も部活動指導員をやったことがあるの

ですけれども、具体的に対策として講じられているものがあれば教えていただきたいです。

(松井委員長)

配置率を高めるための対策。

(山田学校支援課長)

配置を希望する学校は多数あるのですけれども、予算もございますので、今年度において14人の方を配置しています。ですから、希望している学校にすべて配置できていないというところが課題ということで、配置が進んでいないという書き方をさせていただきました。

(鏡委員)

それは予算的なものですか、それとも、人というか、いわゆる応募してくれる人がいないという問題の両方ですか。

(山田学校支援課長)

予算の面もありますが、人については、いろいろお願いして探しているところであります。あとは実際、この競技について来てほしいという学校に対して、なかなかその競技の人については見つからないというマッチングの課題もあるのです。

(鏡委員)

分かりました。

(松井委員長)

ピンポイントでこういう方、この競技ということはなかなか難しいですか。

(山田学校支援課長)

そうです。あと、例えば、北区でそういうニーズがあったとしても、そのやったださるという方が西蒲区在住だったりすると、なかなかうまくマッチングできないのです。

(松井委員長)

いろいろ事情があるという。よろしいですか。

(佐藤(靖)委員)

市内のどの学校も、経験のない部活動を顧問している教員がいて、働き方改革に逆行しているような現状が長年続いています。市内公立中学校56校で部活動指導員の配置が14名という数字がなかなか増えないのは、様々な事情であるということは承知いたしましたが、これから定年延長や雇用関係もいろいろ変化していく中で、部活動が本当に大好きで熱心に指導できる教員もおりますし、退職したらどうしようかという声を聞いたときに、そのような方々を必要とする中学校で指導できるようなシステムができるとよい思いました。その方々は専門的な指導スキルがありますので、教育現場も十分わかっていらっしゃる方が配置されるならば、生徒、保護者はもちろん、育児、介護での両立で悩む教職員は大変助かります。予算内で積極的

に配置できるシステムこそが、中学校の部活動指導者に関わる課題の解決へつながり、働き方改革を推進できると思いましたので意見させていただきました。

(山田学校支援課長)

ありがとうございます。部活動指導員という形では今年度14人ということでございますが、部活動指導員は、大会で引率などもできる対応ですが、そこまではいかないのですけれども、部活動エキスパートという形で、昨年度59人の方をお願いをしていました。これは、引率や顧問的なことはできないのですが、技術指導的なサポートをやっていただけたという方です。

さらに、部活動のサポーターという制度もございまして、これは本当にボランティアで、顧問の指導補助および子どもたちの安全指導などを行います。いわゆる、顧問と同等の指導員というのが重要になるのですけれども、エキスパート、サポーターにはそれぞれ59名、44名というふうについています。それでも、まだまだ足りない状況であるということは認識をしているところでございます。そんな現状のお話です。

(小見委員)

今の質問の関係で、1点気になる点が。予算が概ね1千万円で、実際の決算で900万円くらい使っているのですが、これは実際は14名の方々の人件費というような結果なのでしょうか。

(山田学校支援課長)

そうですね。人件費です。

(小見委員)

人件費。エキスパートやサポーターに対しては、謝礼なりは一切発生はしていないという理解でよろしいですか。

(山田学校支援課長)

エキスパートも報償費が発生しています。1回あたりいくらという。

(小見委員)

そうなのですね。

(山田学校支援課長)

指導員は1時間あたりいくら。サポーターは全く謝礼もなしで、ボランティアです。

(小見委員)

謝礼はなしですね。分かりました。先ほど、財源上、相当制約がある中で、なかなか広げるのは困難なハードルになっているというお話があった中で、今後、やはり新潟市として、どういう姿勢でどんなふうにごくここを捉えていくのか。予算との関係で、本当にお金をやはりまともに今の形で数字を増やしていくとなると相当な負担額になってしまいます。

一方で、部活動の手伝いというのは、やはり貢献的精神を持った方々が社会的貢献心として

頑張りたいのだという、先ほど退職された方とか。そういった方というのは、むしろ費用よりも自分の気持ちでやっている方が多いと思うので、その辺のバランスをどういうふうに、うまく財源を制約しながら、効果的な形に立ち上げていくかということは非常に大きな課題だと思いますけれども、よろしくお願いします。

(松井委員長)

ありがとうございます。部活動指導員については、関連していえば、上の多忙化のところと、非常に密接に、中学校段階ですとそうですよね。非常に密接にかかわってくる場所でもありますので、ぜひ、予算においても支援していただきながら、指導もなかなかマッチングは難しいかもしれないですけども、それでも遠くでもいいというような方もいらっしゃるれば派遣していただくなどして、とにかく現職の教員の負担をなくしていただけるような方向で考えていただき、実現をしていただければありがたいと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

まず、指定の時間を超えていますけれども、どうぞどちらからでも結構ですが、全体で何かご意見があれば、最後にお聞きして、それから事務局にお返ししたいと思いますけれども、いかがでしょうか。どちらからでも結構です。

(佐藤(靖)委員)

25ページに戻っていただきまして、ESDとSDGsの関係についてです。

新潟市は、ずいぶん前からESDを教育計画に位置付ける指導を受け、どの学校も、そのように位置付けていらっしゃると思います。新学習指導要領全面実施により教科書も変わりSDGs関連の記載が多くなりましたし、SDGsは世の中でもマスコミでも当たり前になってきて、少し教育現場ではESDの方が古いのか等、概念が混乱しています。ESDはユネスコから発進されている目標ですし、SDGsは、国連からの目標であり、これらがどのように関連しているのかということ整理する余裕もなく学校現場は様々な新しい教育の概念、価値が混沌としています。新潟小学校のようにESDを研究しているとか、先進的に東京都江東区の八名川小学校もカリキュラム・マネジメントの中でESDを打ち出して、SDGsとうまく関連づけられています。その関連性が、もう少し教諭の皆さんにストンと落ちればいいのですが、どちらもよいの問題ではないのですが、その辺の概念や捉え方が、少し今、なかなか難しさを出しています。

新潟市のほうは、ESDを位置付けましようとなっているのですが、どうしてもSDGsとの関連は何ですかと、いろいろと研修していても明確に答えられないような状況があるので、関連性を説明するリーフレットがあると良いと思いました。

(松井委員長)

いかがですか。

(山田学校支援課長)

ありがとうございます。たしかに、もともとESDと言っていたところに、最近SDGsというものがクローズアップされてきております。私も今、説明しようと言われても、なかなかうまく説明できないかと思うのです。施策概要と書いてあるところに、持続可能な開発目標SDGs達成を目指した持続可能な開発のための教育がESDとあります。そのあたりの位置づけが、SDGsを達成するための教育がESDと言い切っているのかどうか。私もまた勉強させてもらいたいと思います。整理は必要だと思います。現段階では、このままいかせてください。

(佐藤(靖)委員)

ありがとうございます。

(松井委員長)

ありがとうございます。整理をしていただくということをお願いします。

他にいかがでしょうか。どちらから結構です。

(熊谷委員)

35 ページ、事業2、現代的課題を学ぶ公民館事業と学習成果のところ。人生100年時代ということを見据えた今、ライフシフトという考え方が非常に始まってきているので、大人が学び直しをいつの段階でできるかとか、そういうことを若い時からしながら人生を100年生きていくのだということが、非常に注目されている時代になってきたと思うのですが、それについて公民館では、そういう現代的な課題について学び直しの時間をとれるような講座を打っていけるのかどうか。そこら辺をお聞きしたいです。

(渡部中央公民館長)

今、委員からお話のありました学び直しと申しますか、その現代的課題ということで、これは各館によって違います。例えば、若者の異業種交流というものの講座であったり、最近、非常にありますのは、支え合いを勉強していくというものであったりとか、支え合いに関連してですけれども、例えば、これは東区の公民館ですと、お互い様。要は、お互いに助けあうということについて、研究していく講座です。あと、いわゆる男女の差別というのでしょうか、それをなくしていく。当然といえば当然ですが、女性セミナー、これはジェンダーセミナーというものでやられているところもあります。それで、これらは、各公民館がいろいろ企画の段階から練っておりまして、そういったものが必要なのではないかと申すことで、各公民館では取り組んでいるということです。

(松井委員長)

ありがとうございます。

(小見委員)

私が1点、最後に。今回、去年1年間コロナ禍の中で、なかなか対面式による様々な行事ができなかった。特に、生涯学習などもこれから、どんどんそういった場を提供していく。要は、歩みを止めずに前に進んでいくことが必要だと思うのですが、その中で逆にオンラインを活用されたというお話もありまして。

実際、私どもPTAとしても、そういったオンラインによる講演会の提供だとかもやってまいりまして。気づいたことですが、やはりいつでもどこでも見れるという、非常にメリットに対して喜ばしかったという意見をいただくことが多々ありました。

そんな中で、今後、仮にコロナが終息したとしても、より多くの方々にそういった情報の提供、あるいは知識や啓発の提供ということを行うのであれば、対面は対面でやるとしても、例えば終わってから1週間、2週間くらい見たい方にパスワードを教えてご覧いただくとか、そうすることによって、できるだけ多くの方々が少しでも広がって、受益者が増えていくのではないかと考えております。ですから、今後の検討材料としていただくと非常に有効ではないかと思った次第です。

(松井委員長)

ありがとうございます。貴重なご意見をありがとうございます。他に、特によろしいでしょうか。

(鏡委員)

1点だけ。22ページのところに、外国語教育支援事業というところがあるのですが、その事業3のところの指標2、指標3に、中学生と小学生が英語の、いわゆる外国語の学習が分かる肯定的評価というものが78.6パーセントの中学生が答えていた。正直言って、非常に高いと思いました。というのは、学習が分かるという肯定的な意見が非常に高いという印象を、正直いって受けました。

それと同時に、今度、4ページのところには学習実態調査があるわけですね。分かったというふうに答えているところの英語のテストをしたらどうなるかというところになると、新潟市の場合には、去年も私は言ったのですが、そんなに平均が高いわけではない。新潟市の生徒は、むしろ、苦手なところの平均点を取っているわけなので、この辺がなかなか回答があれかと。授業が全く違うのはよく分かるのですが、片方はおそらくALTとか会話的なことだし、片方はテスト的なことなので分かるのですが、今後、22ページにも書いてあるとおり、全面的に指導要領が改訂されるわけです。おそらく、英語の単語の数は、中学校はおそらく倍増すると思うし、高校の英単語からだいぶ落としてくるというふうに予想はつ

くので、その辺の、やはり英語教育の支援とか、そういうものも含めて、もし何かお考えがあったら教えていただければと。

(松井委員長)

ありがとうございます。

(山田学校支援課長)

ありがとうございます。実際に分かるという自己評価と、実際にテストなどをやったときにできるというものとは乖離があるというのは事実かもしれません。それから、新潟市は、全体的に外国の方に積極的に話しかけようとする、コミュニケーションという点では、やや奥ゆかしい面があるかと思っております。

今後の英語、外国語教育についてですけれども、ALTの数がなかなか充足仕切れていない面もあるのですけれども、今後は小学校においては、学級担任を中心に外国語を担当していく動きになっていきます。今も、加配教員で、外国語専科の方も入っていらっしゃって、その方を中心に、これまでも研修などを行ってきました。そうすると専科の方に頼り切ってしまって、それ以上広がっていかないというデメリットもあります。今日も午前中、外国語担当者と人事評価面談をし、今後の外国語をどうするかという話をしたときに、いろいろな方を対象にした外国語の研修なども増やしていく必要があると感じていました。また、様々な広報の媒体を使いながら、いろいろな対象に向かって、最新の情報、評価の仕方など、それから授業スタイルのことなど発信していきたいと、担当者も申しておりました。

(鏡委員)

ありがとうございます。

(松井委員長)

よろしいですか。ありがとうございます。大体時間になりますので、最後、私からお願いが  
ございます。

先ほど委員の皆さんもご指摘くださいましたが、1年以上前からコロナ禍のため、学校の先生方をはじめ、教育関係機関の皆様が様々な点について、身を粉にしてご対応なされてきたことに心より敬意を表したいと思います。

こういう中で、皆様のご努力が将来的に役に立つような教育にしていきたいと思うのです。つまり、コロナ禍になったことによって、今ほどもご指摘がありましたが、いろいろな課題が浮き彫りにされてきました。その一方で、ある面、新しく開発されたところも多くあったと思うのです。ですから、ぜひ新潟市として、新たに出てきた課題を洗い出し整理して、その解決のためにどうしていったらいいかということと、新しく開発された事項をいかに発展させていくかということの両面を併せて考え、中長期的に実行に移して行ってほしいと願っている



ところでは。

もう一つ、最後にすみません。「魅力ある教職員を育成」と多忙化解消対策のところを書いてありますが、是非とも、魅力ある教職員を育成していただきたいと思います。もちろん教員養成に関わる大学・学部も関係することですが、新潟市の教育の発展のために、精力的に取り組んで頂きたいと思っております。

以上、皆さんからご意見を伺ってまいりましたけれども、協議はここまでとさせていただきます。新潟市の教育ビジョン第4期実施計画がスタートして、初年度の進捗評価となりました。本日の推進委員の方々のご意見を踏まえながら、各施策の一層の推進に取り組んでいきたいと思っております。

以上で、推進委員会の協議を終わります。進行を事務局にお返しします。皆さん、どうもご協力ありがとうございました。

(司 会)

長時間にわたりご協議いただき、ありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえまして、教育ビジョン第4期実施計画を推進してまいります。また、後日、会議録を皆様にお送りいたしますので、ご確認をお願いいたします。

次回の推進委員会につきましては、11月中旬を目途に開催したいと考えております。のちほど、また皆様に日程調整等の照会をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、本間本部長が閉会のごあいさつを申し上げます。

(本間本部長)

それでは、私からお礼のごあいさつをさせていただきます。私は、教育次長の本間でございます。4月から教育次長ということで、拝命いたしております。教育ビジョンにおきましては、新潟市教育ビジョンの推進本部という、庁内の教育委員会の組織横断的な推進本部体制の中で、一応本部長という形でやらせていただいております。

本日、推進委員の皆様から、長時間にわたりですけれども、その中でも、かなり濃厚な、濃密な議論を、しかも予定時間内でしていただきました。大変ありがとうございます。これも、松井委員長をはじめとした委員の皆様の協力があったこそだと思っております、敬意を表したいと思います。ありがとうございます。

委員の皆様からの貴重な意見として、学校教育、社会教育、あとは地域と学校の支援のあり方とか関わり方など、まさに学・社・民という視点で多様なご意見をいただきました。ありがとうございます。その中でもコロナ禍から見てきたものというような視点でも、新しいトレンドのご意見をいただいたところでございます。

こういった施策の評価というものは、作りっぱなし、あとは自己満足だけではなくて、外部の有識者の皆様からそれぞれのお立場、目線でフィルターを通して意見をいただくことによって、PDCAサイクルと申しますか、磨き上げられていく。PDCAもただ回っていくだけではなく、だんだん上っていくような、スパイラルアップしていくような循環に入っていくのかと思っております。令和2年度からの取組みがスタートということでございますが、また本日の貴重な意見をもとにしまして、事務局一丸となってこの教育ビジョンの推進に取り組んでいきたいと思っております。本日は、大変どうも貴重なご意見をありがとうございました。

(司 会)

これで、第47回新潟市教育ビジョン推進委員会を終了いたします。大変ありがとうございました。